

令和6年12月20日

都市局公園緑地・景観課

令和5年に東京ドーム3個分の屋上緑化が創出

～全国屋上・壁面緑化施工実績調査の結果～

令和5年には、約15.7haの屋上緑化、約5.0haの壁面緑化が新たに創出されました。

屋上緑化・壁面緑化は、都市におけるヒートアイランド現象の緩和、美しく潤いのある都市空間の形成、都市の脱炭素化等に寄与し、全国的に取り組みが進められています。

国土交通省では、平成12年から全国の屋上・壁面緑化の施工実績調査を行っており、この度、令和5年の調査結果をまとめました。

1. 調査結果(施工面積)

(1) 単年施工面積

令和5年に、屋上緑化は東京ドーム※1約3個分にあたる約15.7ha、壁面緑化は約5.0haが施工されました。

※1 東京ドーム:約4.7ha

(2) 累計施工面積

調査を開始した平成12年から令和5年までの24年間※2で、屋上緑化は約615ha、壁面緑化は約125haが施工されました。

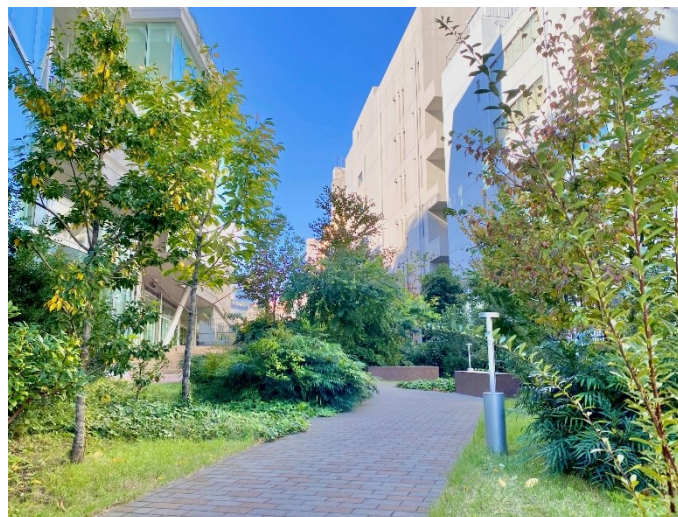
※2 本調査は最大3年間遡った回答を依頼しているため、令和4年、令和5年データは暫定値であり、来年度以降の調査の結果、数値が変わる可能性があります。

2. 近年の特徴的な傾向

近年、屋上緑化の植栽環境として、厚みのある植栽の土壌(植栽基盤)を採用している割合が高まっています。植栽基盤を厚くすることで、中高木を含む多種多様な樹種を持続的に育成することが可能です。詳しくは「トピック」をご覧ください。

(参考)調査の概要

- ①調査方法: 郵送によるアンケート調査
- ②調査対象企業: 全国の造園建設会社や総合建設会社、屋上・壁面緑化関連資材メーカーなど 計560社
- ③回答回収状況: 回収284社(回収率50.7%)
- ④調査対象期間: 令和5年1月1日～令和5年12月31日



多様な樹種を使った屋上緑化の例: 東京都 中央区 本の森ちゅうおう
(写真は本の森ちゅうおう2F つどいの森)

<問い合わせ先>

都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 峰寄、尾崎、鈴木

TEL: 03-5253-8111 (内線32945、32965) 直通: 03-5253-8420

近年、屋上緑化の植栽環境として、厚みのある植栽基盤を採用する割合が高まっており、令和5年は全体の88.3%を占め、過去最高となりました。植栽基盤を厚くすることで、中高木を含む多種多様な樹種を持続的に育成することが可能となり、生物多様性の確保や地域の緑地との調和した事例などが見られます。

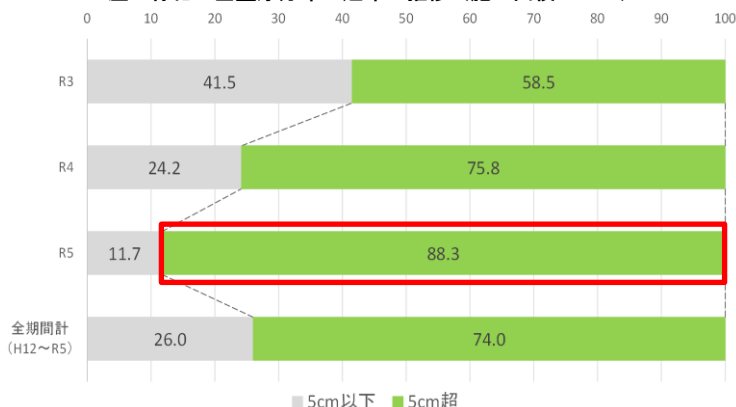
具体例として最新の事例を紹介します。

右のグラフは屋上緑化施工時の植栽土壌（基盤）厚の分布について、過去3年間の推移を示したものです。令和5年は「5cm超」が88.3%を占め、過去最高となりました。

厚い植栽基盤は水分保持力や栄養保持力が高いため、中高木を含む多種多様な樹種を育成することが可能であることから、ニーズが高まっていると考えられます。

具体例として、教育文化施設、商業施設、官公庁施設それぞれで、厚い植栽基盤が用いられており中高木を含む多種多様な樹種を使用している事例を紹介します。

屋上緑化 基盤厚分布の近年の推移（施工面積ベース）



都心に居ながら森を感じられる教育文化施設の事例

本の森ちゅうおう（中央区立京橋図書館・中央区立郷土資料館）（東京都中央区）

森林生態系から着想を得た建物構造

本の森ちゅうおうは、中央区立京橋図書館を中心に、郷土資料館・生涯学習機能・カフェ等を備えた文化複合施設です。森林生態系から着想を得た立体的で多彩な造りを持つ建物は、自発的な散策を誘発しつつ、継続利用してもらうことで、新しい知との出会いの場となることを意図しています。屋上部の緑地は、近隣の桜川公園・桜川敬老館等で構成されるグリーンベルトの構成要素となっています。

厚い基盤に支えられた屋上の森

6F屋上庭園にはジンダイアケボノ（桜）を始め、四季を感じられる樹木が植栽されています。また2Fのつどいの森にはソヨゴやシラカシ等、大小様々な樹木が配置されており、それを支えるために30～55cm程の

厚い植栽基盤が採用されています。良い生育環境が整っており旺盛に成長するため、訪れるたびに変化を楽しめる庭園です。3～5Fのテラスはプランター植えの植物が並び、ガラス張りの壁を通して館内から眺めることが出来ます。上階ほど建物がセットバックする外観は、植物の生育に必要な光を遮らず、周囲に落とす影を減らすデザインになっています。



6F屋上庭園 四季を感じられる桜、サルスベリやイロハモミジ等を植栽

諸元

敷地面積	: 4,000㎡
建築面積	: 2,707㎡
緑化面積(屋上)	: 948㎡
階数	: 地上6階 地下1階
完成時期	: 2022年



本の森ちゅうおう全景



2Fつどいの森 街中にありながら豊かな緑を感じられる

カルチャー発信地の商業施設で、多種多様な樹種を取り入れた事例

東急プラザ原宿「ハラカド」(東京都渋谷区)

カルチャーの発信地 原宿の中心にある商業施設

東急プラザ原宿「ハラカド」は、ファッションやカルチャーが集まる街「原宿」の中心に位置する商業施設です。新しい体験価値を享受できる場所として、文化創造・発信拠点となることを目指しており、施設内には個性的な店舗が並びます。凹凸に角度がつけられたガラス張りの外装には、原宿の街並みや行きかう人々が映り込みます。5F~7Fの屋上テラスは、都会に広がる自然の中での贅沢な体験と、質が高く心地良い滞在性を感じられます。



ハラカドの全景

気候変動に対応した持続可能な緑化

ハラカドの屋上緑化は『熱帯化する東京における自然の新しいあり方』をコンセプトにしていることから、屋上という過酷な環境下でも成長し続けられるよう約60cmの厚い植栽基盤の整備と気候に適した品種選定を行っています。植栽配置は、多層階に渡る屋上テラスの立体的な空間構成を活かし、見上げた際に緑の迫力を感じる効率的な配置計画となっています。高さ約13mの壁面緑化や手摺・層間部を覆う緑、背の高い木々は、地上から見上げると大きなボリュームを持ち、ケヤキ並木との連続性が、神宮前に緑豊かな新しい景観を生み出しています。



7Fの大規模な壁面緑化



力強いグリーン

諸元

敷地面積	: 3,084㎡
建築面積	: 2,357㎡
緑化面積(壁面)	: 266㎡(598㎡)
階数	: 地上7階・地下1階
完成時期	: 2023年

地元の自然植生を取り入れた官公庁施設の事例



中高木を含む多様な植物種を含む植栽



ゾーニングの解説板

岐阜市役所庁舎(岐阜県岐阜市)

市民に親しまれ、長く使い続けることを前提とした新庁舎

岐阜市役所庁舎は、市民に開かれた利便性の高い庁舎となるべく、平成16年の検討開始から長い時間をかけて令和3年に開庁しました。ビル風・周辺施設への日照・防災・環境に配慮した、きめ細かな施設設計が特徴の建築です。地域住民との交流や市民活動を支援するオープンスペースを充実させ、都市と自然、人々のつながりを強化する拠点としての役割を果たします。

山地と川の間位置し地域の環境をつなぐ屋上庭園

岐阜市役所庁舎は、標高329mの金華山と、日本三大清流に数えられる長良川という豊かな自然に囲まれた場所に位置します。「みどりの丘」と名付けられた屋上庭園は、周囲の自然環境を模したゾーニングがなされており、50cmを超える厚い植栽基盤を採用し、中高木を植えることで、自然環境を再現しました。ヤマザクラ等が主体の二次林、ツブラジイやアラカシを中心とした自然林、カワラハハコを植栽した河川敷の各ゾーンに分かれ、地域の自然環境の大切さを伝えています。



施設全景

諸元

敷地面積	: 20,187㎡
建築面積	: 5,744㎡
緑化面積(屋上)	: 390㎡
階数	: 地上18階
完成時期	: 2021年